

開講開始年度	2021
授業コード	3L7001
担当教員	⑥ 末原 聡
科目	情報処理演習A
単位数	⑤ 選択 2 単位
授業概要	③ この授業では、Microsoft office の利用を通して、①文書の作成、②データの計算・集計と図表・データベースの作成、③プレゼンテーション、④Excel で作成した図表を Word や PowerPoint に貼り付けて効果的なドキュメントを作る などの基礎的な技術を習得することを目的とする。
学位授与方針の関連到達目標	① Microsoft Office の各ソフトを用いて、②文書作成、①計算・集計・分析、③プレゼンテーションなど一連の作業ができる基礎的な知識・技術を身に付ける。さらに、④それらを他人にわかりやすく伝えられるよう、効果的な表やグラフが作成できることを最終的な目標とする。 * 学位授与の方針との関連: この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(4)ビジネス・ベーシック・スキルを養うことを目的としている。
授業計画	②④ 第1回: イントロダクション[演習] 第2回: 文書作成(Word)① ビジネス文書[演習] 第3回: 文章作成(Word)② タブ設定と表挿入[演習] 第4回: 文章作成(Word)③ 図形要素の挿入①[演習] 第5回: 文章作成(word)④ 図形要素の挿入②[演習] 第6回: 表計算(Excel)① 基本の表作成[演習] 第7回: 表計算(Excel)② 表の編集と絶対参照[演習] 第8回: 表計算(Excel)③ グラフの作成と編集[演習] 第9回: 表計算(Excel)④ 条件で判断する[演習] 第10回: 表計算(Excel)⑤ 別表の参照とエラー回避[演習] 第11回: 表計算(Excel)⑥ データベースの利用[演習] 第12回: 文章作成(Word)&表計算(Excel) 演習 データの収集・加工・分析[演習] 第13回: プレゼンテーション(PowerPoint)① スライドの作成[演習] 第14回: プレゼンテーション(PowerPoint)② スライドの作成[演習] 第15回: プレゼンテーション(PowerPoint)③ スライドの作成[演習]
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	第1回<予習>書籍・学術論文を用いて、Microsoft Office の各ソフトの概要について調べる。(60分)<復習>Microsoft Office の各ソフトの概要を復習・理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分) 第2回<予習>書籍・学術論文を用いて、文書作成ソフトの Word を用いたビジネス文書の作成について調べる。(60分)<復習>文書作成ソフトの Word を用いたビジネス文書の作成を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分) 第3回<予習>書籍・学術論文を用いて、文書作成ソフトの Word を用いたタブ設定と表挿入について調べる。(60分)<復習>、文書作成ソフトの Word を用いたタブ設定と表挿入を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分) 第4回<予習>書籍・学術論文を用いて、文書作成ソフトの Word を用いた図形要素の挿入について調べる。(60分)<復習>文書作成ソフトの Word を用いた図形要素の挿入を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分) 第5回<予習>書籍・学術論文を用いて、文書作成ソフトの Word を用いた図形要素の挿入について調べ

	<p>る。(60分) <復習> 文書作成ソフトの Word を用いた図形要素の挿入を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第6回<予習> 書籍・学術論文を用いて、表計算ソフトである Excel を用いた基本の表作成について調べる。(60分) <復習> 表計算ソフトである Excel を用いた基本の表作成を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第7回<予習> 書籍・学術論文を用いて、表計算ソフトである Excel を用いた表の編集と絶対参照を調べる。(60分) <復習> 表計算ソフトである Excel を用いた表の編集と絶対参照を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第8回<予習> 書籍・学術論文を用いて、表計算ソフトである Excel を用いたグラフの作成と編集について調べる。(60分) <復習> 表計算ソフトである Excel を用いたグラフの作成と編集を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第9回<予習> 書籍・学術論文を用いて、表計算ソフトである Excel を用いた条件で判断する技法について調べる。(60分) <復習> 表計算ソフトである Excel を用いた条件で判断する技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第10回<予習> 書籍・学術論文を用いて、表計算ソフトである Excel を用いた別表の参照とエラー回避技法について調べる。(60分) <復習> 表計算ソフトである Excel を用いた別表の参照とエラー回避技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第11回<予習> 書籍・学術論文を用いて、表計算ソフトである Excel を用いたデータベースの利用技法について調べる。(60分) <復習> 表計算ソフトである Excel を用いたデータベースの利用技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第12回<予習> 書籍・学術論文を用いて、文書作成ソフトの Word および表計算ソフトである Excel を用いたデータの収集・加工・分析について調べる。(60分) <復習> 文書作成ソフトの Word および表計算ソフトである Excel を用いたデータの収集・加工・分析を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第13回<予習> 書籍・学術論文を用いて、プレゼンテーションソフトである PowerPoint を用いたスライドの作成について調べる。(60分) <復習> プレゼンテーションソフトである PowerPoint を用いたスライドの作成を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第14回<予習> 書籍・学術論文を用いて、プレゼンテーションソフトである PowerPoint を用いた、スライドの強調の技法について調べる。(60分) <復習> プレゼンテーションソフトである PowerPoint を用いた、スライドの強調の技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第15回<予習> 書籍・学術論文を用いて、プレゼンテーションソフトである PowerPoint を用いた、プレゼンテーションの技法について調べる。(60分) <復習> プレゼンテーションソフトである PowerPoint を用いた、プレゼンテーションの技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p><休日学習> 会計学あるいは会計制度の文献を1冊読むこと。</p> <p>※授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習すること。</p>
テキスト	特に指定しない。必要に応じて随時、資料やプリントを配布する。
参考書	特に指定しない。
⑦ 成績評価の方法・基準	演習課題 40%、レポート課題 30%、授業への貢献度 30%、によって評価する
URL	
備考	授業中に課題の作成が終わらなかった場合は必ず来週までにフィードバックを受けられるようにしておく。

開講開始年度	2021
授業コード	3L8001
担当教員	⑥ 末原 聡
科目	情報処理演習B [1]◆
単位数	⑤ 選択 2 単位
授業概要	<p>③ この授業では、①文書の作成、②データの計算・集計と図表・データベースの作成、③プレゼンテーション、④ Excel で作成した図表を Word や PowerPoint に貼り付けて効果的なドキュメントを作るなどの基礎的な技術を習得することを目的とする。</p> <p>特に、企業の財務諸表データ、公的機関のデータベースから、データを収集、入力し抽出、加工する方法を学び、データを読み取り分析内容を効果的に伝える力を身に着ける。</p>
学位授与方針の関連 到達目標	<p>① Microsoft Office の各ソフトを用いて、②文書作成、①計算・集計・分析、③プレゼンテーションなど一連の作業ができる基礎的な知識・技術を身に付ける。さらに、④それらを他人にわかりやすく伝えられるよう、効果的な表やグラフが作成できることを最終的な目標とする。</p> <p>* 学位授与の方針との関連:この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(4)ビジネス・ベーシック・スキルを養うことを目的としている。</p>
授業計画	<p>②④ 第1回:イントロダクション[演習]</p> <p>第2回:基本的な Office ソフトの操作の確認[演習]</p> <p>第3回:企業の財務データを分析する Excel データの収集・入力[演習]</p> <p>第4回:企業の財務データを分析する Excel データの抽出・加工[演習]</p> <p>第5回:企業の財務データを分析する Excel・Word データの分析とまとめ[演習]</p> <p>第6回:企業の財務データを分析する PowerPoint プレゼンテーションの作成[演習]</p> <p>第7回:企業に対するアンケートデータを分析する Excel データの収集・入力[演習]</p> <p>第8回:企業に対するアンケートデータを分析する Excel データの抽出・加工[演習]</p> <p>第9回:企業に対するアンケートデータを分析する Excel・Word データの分析とまとめ[演習]</p> <p>第10回:企業に対するアンケートデータを分析する PowerPoint プレゼンテーションの作成[演習]</p> <p>第11回:業界分析 Excel データの収集・入力[演習]</p> <p>第12回:業界分析 Excel データの抽出・加工[演習]</p> <p>第13回:業界分析 Excel・Word データの分析とまとめ[演習]</p> <p>第14回:業界分析 PowerPoint プレゼンテーションの作成[演習]</p> <p>第15回:まとめ[小テスト・講評]</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>第1回<予習>書籍・学術論文を用いて、情報処理演習 A で学んだ、文書作成ソフトの Word、表計算ソフトである Excel、およびプレゼンテーションソフトである PowerPoint の技法について調べる。(60 分)<復習>書作成ソフトの Word、表計算ソフトである Excel、およびプレゼンテーションソフトである PowerPoint の技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60 分)</p> <p>第2回<予習>書籍・学術論文を用いて、基本的な Office ソフトの操作について調べる。(60 分)<復習>基本的な Office ソフトの操作を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60 分)</p> <p>第3回<予習>書籍・学術論文を用いて、企業の財務データを分析する Excel データの収集・入力技法について調べる。(60 分)<復習>、企業の財務データを分析する Excel データの収集・入力技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60 分)</p> <p>第4回<予習>書籍・学術論文を用いて、企業の財務データを分析する Excel データの抽出・加工技法につ</p>

	<p>いて調べる。(60分)＜復習＞企業の財務データを分析する Excel データの抽出・加工技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第5回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、企業の財務データを分析する Excel・Word データの分析技法について調べる。(60分)＜復習＞企業の財務データを分析する Excel・Word データの分析技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第6回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、企業の財務データを分析する PowerPoint プレゼンテーションの作成技法について調べる。(60分)＜復習＞企業の財務データを分析する PowerPoint プレゼンテーションの作成技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第7回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、企業に対するアンケートデータを分析する Excel データの収集・入力技法について調べる。(60分)＜復習＞企業に対するアンケートデータを分析する Excel データの収集・入力技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第8回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、企業に対するアンケートデータを分析する Excel データの抽出・加工について調べる。(60分)＜復習＞企業に対するアンケートデータを分析する Excel データの抽出・加工を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第9回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、企業に対するアンケートデータを分析する Excel・Word データの分析技法について調べる。(60分)＜復習＞企業に対するアンケートデータを分析する Excel・Word データの分析技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第10回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、企業に対するアンケートデータを分析する PowerPoint プレゼンテーションの作成技法について調べる。(60分)＜復習＞企業に対するアンケートデータを分析する PowerPoint プレゼンテーションの作成技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第11回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、業界分析 Excel データの収集・入力について調べる。(60分)＜復習＞業界分析 Excel データの収集・入力を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第12回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、業界分析 Excel データの抽出・加工について調べる。(60分)＜復習＞業界分析 Excel データの抽出・加工を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第13回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、業界分析 Excel・Word データの分析技法について調べる。(60分)＜復習＞業界分析 Excel・Word データの分析技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第14回＜予習＞書籍・学術論文を用いて、業界分析 PowerPoint プレゼンテーションの作成技法について調べる。(60分)＜復習＞業界分析 PowerPoint プレゼンテーションの作成技法を理解できたかを確認し、質問事項をまとめる。(60分)</p> <p>第15回＜予習＞他の書籍・学術論文を用いて、確認テストに備え、情報処理演習 B の講義全般について調べる。(60分)＜復習＞確認テストに出題された問題をチェックし、理解を完全なものにする。(60分)</p> <p>＜休日学習＞会計学あるいは会計制度の文献を1冊読むこと。</p> <p>※授業外学習時間は60時間必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習すること。</p>
テキスト	特に指定しない。必要に応じて随時、資料やプリントを配布する。
参考書	特に指定しない。
成績評価の方法・基準 ⑦	演習課題 50%、期末レポート課題 50%によって評価する
URL	
備考	授業中に課題の作成が終わらなかった場合は必ず来週までにフィードバックを受けられるようにしておく。

開講開始年度	2021
授業コード	3C0128
担当教員	⑥ 進邦 徹夫
科目	ローカル・ガバメント論A／地方政府論
単位数	⑤ 選択 2 単位
授業概要	<p>③ 2000年に地方分権一括法が制定され、多くの権限が国から地方政府に移譲されました。これまで以上に多くの行政事務を担うことになった地方政府は、少ない財源で行政運営を行わざるを得ません。このため、多くの地方政府は、財政力の確保のために市町村合併を余儀なくされました。</p> <p>財政的な格差が生じた一方で、地方分権を行うことによって、我々の身近な政府が行政事務を行うことになったのは、決して悪いことではありません。しかし「補完性の原則」から考えると、本来は基礎的自治体である市町村が行う行政事務の範囲を定め、市町村ができないことを都道府県が、都道府県ができないことを国が行うべきで、「分権」という発想自体がおかしいのかもしれない。</p> <p>大阪府と大阪市の二重行政を克服するためとして、「大阪都構想」をめぐる住民投票が行われましたが、これをめぐり自治体の役割分担を巡る議論や、首長のあり方が注目を浴びようになってきました。</p> <p>本講義では、中央-地方関係に関する様々な理論を検討するいっぽうで、具体的な事例を取り上げながら地方政府の現在を検討していきたいと考えています。</p> <p>さらに、行政課題解決にビッグデータを活用した事例や、自治体のDX(デジタルトランスフォーメーション)についても、授業展開に沿って検討を加えます。</p> <p>ビッグデータ等、データサイエンスについての講義は、オンデマンドを併用して解説します。オンデマンドでは、1. 社会におけるデータ・AI 利活用(社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用のための技術、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向)、2. データリテラシー(データを読む、データを説明する、データを扱う)、3. データ・AI 利活用における留意事項(データ・AI を扱う上での留意事項、データを守る上での留意事項)を解説します。</p>
学位授与方針の関連 到達目標	<p>都市と地方の格差は埋めることができるのか？ 地方政府が「自立する」という意味。 望ましい自治体の規模とは？</p> <p>*学位授与方針との関連: この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(1)多角的視野、(2)幅広い教養、を養うことを目的にしている。</p> <p>① ビッグデータ等、データサイエンスに関する基礎を修得し、用語を用いてデータサイエンスについて概説することができる。</p>
授業計画	<p>②④ 第1回: 日本の地方政府 : 地方政府とは何か、日本の地方制度の特質について学ぶ[講義・質疑応答] 第2回: 日本の地方制度1-明治国家の地方制度: 廃藩置県、大区小区制、地方三新法、府県制郡制・市制町</p>

村制について学ぶ[講義・質疑応答]

第3回：日本の地方制度2-現代日本の地方制度：地方自治法、昭和の大合併、地方の時代、平成の大合併について学ぶ[講義・質疑応答]

第4回：地方と国の財政問題：三割自治、中央-地方の財源配分の妥当性、中央-地方税制の現状について学ぶ[講義・質疑応答]

第5回：地方政府と首長：地方政府の二元代表制論、首長の専決処分権、首長権限の大きさについて学ぶ[講義・質疑応答]

第6回：地方政府と議会：二元代表制と相乗り現象、亥年効果・寅年効果、地方議会制度改革について学ぶ[講義・質疑応答]

第7回：地方政府と住民参加：市民参加条例、自治基本条例、参加の正当性について学ぶ[講義・質疑応答]

第8回：地方政府の課題1-都市：コンパクトシティについて、富山、青森などの事例について学ぶ[講義・質疑応答]

第9回：地方政府の課題2-地方：ソーシャル・キャピタルについて学ぶ[講義・質疑応答]

第10回：地方政府と行政改革：第3セクターとはなにか、地方単独事業の限界について学ぶ[講義・質疑応答]

第11回：住民参加の制度化と協働：地方政府における協働の課題、住民参加の制度化は必要なのかについて学ぶ[講義・質疑応答]

第12回：地域再生を考える1-中心市街地活性化：補助金による地方創生の限界、イベントから自立した地方政府のあり方を学ぶ[講義・質疑応答]

第13回：地域再生を考える2-まちづくりと地域住民：まちづくりにおける地域住民の役割について学ぶ[講義・質疑応答]

第14回：地域再生を考える3-まちづくりと大学：まちづくりにおける大学の役割について学ぶ[講義・質疑応答]

第15回：総括：第1回から第14回までの総まとめと補足を行う[講義・質疑応答]

*課題に対するフィードバックの方法：毎回講義の冒頭で前回の課題についてフィードバックを行う。

<オンデマンド授業>

オンデマンド授業の視聴については、授業進行との兼ね合を考慮した上で適時指示する。

視聴後、オンデマンド授業内容について試験を実施する。

1. 社会におけるデータ・AI 利活用[講義]

社会で起きている変化と活用されているデータ。AI の活用事例

2. データ・AI 利活用のための技術[講義]

AI 利活用の現場と最新の動向について

3. データリテラシー・データを読む[講義]

データを読解について

4. データリテラシー・データを扱う[講義]

データの取り扱いと活用

5. データ・AI 利活用における留意事項[講義]

データや AI の利活用と留意点について

★フィードバック方法：授業内試験のフィードバックや質問等のサポートは、WEB 等オンラインで行う。

<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p>	<p>第1回 (予習) 地方政府、地方自治体、地方公共団体、それぞれのどんな場合に使われるだろう。それぞれの言葉が持つ意味や、使われる背景について調べておくこと(45分)</p> <p>(復習) 日本の地方政府が抱える問題を振り返る(45分)</p> <p>第2回 (予習) 戦前期の日本の地方制度について調べる(45分)</p> <p>(復習) 戦前期の地方自治が戦後の地方自治に与えた影響について整理する(45分)</p> <p>第3回 (予習) 戦後日本の地方制度の展開が、現代の地方行政にいかなる影響を与えているか調べておく(45分)</p> <p>(復習) 戦後の中央-地方関係に影響を与えたものは何か、整理する(45分)</p> <p>第4回 (予習) 現代の地方財政が抱える問題点について調べておくこと (45分)</p> <p>(復習) 日本の地方財政が如何にあるべきか考える(45分)</p> <p>第5回(予習) 二元代表制について理解し首長の持つ権限を調べておくこと (45分)</p> <p>(復習) 首長と議会の権限について整理する(45分)</p> <p>第6回(予習) 二元代表制について理解し、議会と市民参加が対立する背景を調べておくこと (45分)</p> <p>(復習) 議会における市民参加についても調べ、市民参加の制度を整理する(45分)</p> <p>第7回 (予習) 市民の政治参加と行政参加について整理しておくこと(45分)</p> <p>(復習) 市民参加の阻害要因と促進要因を整理する(45分)</p> <p>第8回 (予習) コンパクトシティの事例について調べておくこと(45分)</p> <p>(復習) コンパクトシティの成功例と失敗例を整理する(45分)</p> <p>第9回 (予習) ソーシャル・キャピタルについて調べておくこと(45分)</p> <p>(復習) ソーシャル・キャピタルが社会に与える影響について整理する(45分)</p> <p>第10回 (予習) 第3セクターについて、その具体例を調べておくこと (45分)</p> <p>(復習) 地方政府は単独事業を行うことができないか考える(45分)</p> <p>第11回 (予習) 市民の「参加」と「協働」について相違点を調べておくこと(45分)</p> <p>(復習) 「参加」と「協働」の違いについて整理する。(45分)</p> <p>第12回 (予習) 補助金による地方再生事例を調べておくこと(45分)</p> <p>(復習) 補助金による地方再生が難しい理由を考察する(45分)</p> <p>第13回 (予習) 米国ポートランド市におけるシティリペアについて調べておくこと(45分)</p> <p>(復習) まちづくりにおいて、住民はなにをすべきか考察する(45分)</p> <p>第14回 (予習) 日本各地の大学コンソーシアムの活動について調べておくこと(45分)</p> <p>(復習) 大学が地域再生において果たす役割について整理する(45分)</p> <p>第15回 (予習) 第1回から第14回までの講義内容で関心のある事例を調べておくこと (45分)</p> <p>(復習) 春学期に学んだことを総合的に整理する(45分)</p> <p>オンデマンド授業について</p> <p>下記テキストの各章を予習し、視聴後ノートを完成する。</p> <p>* 授業外学習時間は、60時間必要となる。不足分は休暇等を利用して補うこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>今井照『図解 よくわかる地方自治のしくみ』学陽書房 2011 データサイエンス入門第2版 ISBN978-4-7806-0730-7 学術図書出版社</p>
<p>参考書</p>	<p>適宜指示をします。</p>
<p>⑦ 成績評価の方法・基準</p>	<p>①絶対評価で採点します。</p> <p>②中間試験と学期末試験を行います。</p> <p>中間試験は持ち込み可で行いますので、問題に的確に答えていない場合は不採点とします。</p>

	<p>学期末試験は、論述と穴埋め方式の出題とします。論述については、(試験問題に記載するかどうかは未定です)</p> <p>が)いくつかのキーワードを設定し、そのキーワードが理解され、文章が論理的に構成されているか(相手に伝えやすく書いているか)で採点します。</p> <p>③試験の持込については不可とします。</p> <p>④講義中の態度が著しく悪い場合、退室とし、不合格とする場合があります。</p> <p>* オンデマンド授業の確認試験評価は、定期試験に含まれる。</p> <p>※以下のルールが守られない場合、履修を認めません。</p> <p>1)講義中の入退室について</p> <p>講義中の入退室は、講義の進行に大きな妨げになります。厳禁します。</p> <p>2)講義中の私語・携帯電話の使用について</p> <p>講義中の私語、携帯電話の使用もまた、講義の進行に大きな妨げになります。厳禁です。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】POL210</p> <p>初回から講義をします。</p> <p>必ず出席してください。</p> <p>【URL】http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/general_policy/shimpou/</p>

開講開始年度	2021
授業コード	3C0129
担当教員	⑥ 進邦 徹夫
科目	ローカル・ガバメント論B／行政学演習
単位数	⑤ 選択 2 単位
授業概要	<p>③ 一昨年、元総務大臣の増田寛也氏が提示したいわゆる「増田レポート」は、『地方消滅』という新書にもまとめられ、大きく報道されたのでご存じの方も多いことでしょう。あわせて増田氏は、東京、名古屋、大阪などの大都市圏への過度な人口集中は、急激な高齢化をもたらすために介護者が不足する『東京消滅』という議論も展開します。</p> <p>「地方消滅」と「東京消滅」を一挙に解消するために、増田氏は高齢者が地方都市に移住することを提案します。地方に介護産業が生まれ、雇用が創出される、というものです。東京が地方に一方的に依存する中央-地方関係は、第二次世界大戦後一貫して変わらないものです。</p> <p>また、東日本大震災でも注目をされましたが、「地方」では「自助」や「共助」が強調されコミュニティのあり方が大きく変化してきています。高度経済成長以降、都市部では人口集中に伴い、また地方では「限界集落」論にも見られるように、人口が減少して意地が難しくなり、コミュニティの崩壊や衰退が進んでいます。</p> <p>本講義では、中央-地方関係の今日的な課題である「地方消滅」論と「コミュニティ論」について考察していきたいと思います。果たして、持続可能な中央-地方関係を展開するためには、国、自治体、住民、企業などのアクターはどのような対応が望まれるのでしょうか。履修者のみなさんと考えてみたいと思います。</p> <p>さらに、行政課題解決にビッグデータを活用した事例や、自治体の DX(デジタルトランスフォーメーション)についても、授業展開に沿って検討を加えます。</p> <p>ビッグデータ等、データサイエンスについての講義は、オンデマンドを併用して解説します。オンデマンドでは、1. 社会におけるデータ・AI 利活用(社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用のための技術、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向)、2. データリテラシー(データを読む、データを説明する、データを扱う)、3. データ・AI 利活用における留意事項(データ・AI を扱う上での留意事項、データを守る上での留意事項)を解説します。</p>
学位授与方針の関連 到達目標	<p>① 地方都市の抱える課題を理解する コミュニティの現状を理解する コミュニティの課題を把握する</p> <p>*学位授与方針との関連: この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(1)多角的視野、(2)幅広い教養、を養うことを目的にしている。</p> <p>① ビッグデータ等、データサイエンスに関する基礎を修得し、用語を用いてデータサイエンスについて概説することができる。</p>
授業計画	<p>②④ 1.はじめに: 地方は「衰退」しているのか? RESAS に触ってみよう[講義・質疑応答] 2.「増田レポート」の衝撃-地方消滅論: 地方が消滅する意味、人口が減ると何が問題か[講義・質疑応答] 3.「増田レポート」の克服?-地方創生論: 地方創生は地方を豊かにするのか、介護で地方経済が回復するのか[講義・質疑応答]</p>

	<p>4.地方は弱体化しているのか: 里山経済論で地方は回復するのか[講義・質疑応答]</p> <p>5.リノベーションまちづくり-地方創生の可能性1:リノベーションとは何か、リノベーションとエリアリノベーション[講義・質疑応答]</p> <p>6.地域ブランドの確立-地方創生の可能性2:地域のブランディング戦略、シティ・プロモーションの実際[講義・質疑応答]</p> <p>7.地方創生の主体:地方創生は誰が誰のために行うのか、地方創生はパラマキ?[講義・質疑応答]</p> <p>8.コミュニティとソーシャル・キャピタル:ソーシャル・キャピタルとは何か、コミュニティ再生は必要か[講義・質疑応答]</p> <p>9.「コミュニティ政策」とは1-コミュニティ論の萌芽:戦後日本とコミュニティ、1960～1970年代のコミュニティ政策[講義・質疑応答]</p> <p>10.「コミュニティ政策」とは2-コミュニティ政策の展開:1980年代～現代のコミュニティ政策[講義・質疑応答]</p> <p>11.「コミュニティ政策」とは3-コミュニティ政策の現状:1.17・3.11を経験した後のコミュニティ政策を考える[講義・質疑応答]</p> <p>12.コミュニティデザイン:コミュニティ・デザインとはなにか、ソーシャル・ビジネスとはなにか[講義・質疑応答]</p> <p>13.東日本大震災と「コミュニティ政策」:震災とコミュニティ、復興とコミュニティ[講義・質疑応答]</p> <p>14.コミュニティの国際比較:ドイツのコミュニティ、アメリカのコミュニティ、台湾の社区[講義・質疑応答]</p> <p>15.総括:第1回から第14回までの総括[講義・質疑応答]</p> <p><オンデマンド授業></p> <p>オンデマンド授業の視聴については、授業進行との兼ね合を考慮した上で適時指示する。</p> <p>視聴後、オンデマンド授業内容について試験を実施する。</p> <p>1. 社会におけるデータ・AI 利活用[講義]</p> <p>社会で起きている変化と活用されているデータ。AI の活用事例</p> <p>2. データ・AI 利活用のための技術[講義]</p> <p>AI 利活用の現場と最新の動向について</p> <p>3. データリテラシー・データを読む[講義]</p> <p>データを読解について</p> <p>4. データリテラシー・データを扱う[講義]</p> <p>データの取り扱いと活用</p> <p>5. データ・AI 利活用における留意事項[講義]</p> <p>データや AI の利活用と留意点について</p> <p>★フィードバック方法:授業内試験のフィードバックや質問等のサポートは、WEB 等オンラインで行う。</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>第1回 (予習)自分が暮らすまちが、衰退しているか調べておくこと(45分)</p> <p>(復習)自分の暮らすまちについて、RESAS で分析してみる(45分)</p> <p>第2回 (予習)増田寛也氏の地方消滅論について調べる(45分)</p> <p>(復習)地方消滅論と反増田氏の論調について整理する(45分)</p> <p>第3回 (予習)地方創生の具体例を調べておく (45分)</p> <p>(復習)地方創生プランの実現可能性について考察する(45分)</p> <p>第4回 (予習)里山経済論、田舎暮らしなどについて調べておくこと (45分)</p> <p>(復習)地方の人口が増える可能性について考える(45分)</p> <p>第5回(予習)リノベーションについて調べておくこと (45分)</p> <p>(復習)リノベーションの具体例を調査しておく(45分)</p>

	<p>第6回(予習)ブランディングに成功した地域について調べておくこと(45分) (復習)シティ・プロモーションや地域ブランディングの成功例を整理する(45分)</p> <p>第7回 (予習)政府の行う地方創生事業について調べておくこと(45分) (復習)地方創生の具体例をを整理する(45分)</p> <p>第8回 (予習)ソーシャル・キャピタルについて調べておくこと(45分) (復習)コミュニティにおいてソーシャル・キャピタルの充実は必要か考察する(45分)</p> <p>第9回 (予習)戦後日本の人口動態について調べておくこと(45分) (復習)戦後日本のコミュニティ政策が誕生した背景について整理する(45分)</p> <p>第10回 (予習)自治省の「コミュニティ(近隣社会)に関する対策要綱」を調べておくこと (45分) (復習)全国各地で展開されたコミュニティ政策を整理しておくこと(45分)</p> <p>第11回 (予習)総務省の主張する「地域協働体」について調べておくこと(45分) (復習)全国で展開される「地域協働体」の具体例を整理しておくこと(45分)</p> <p>第12回 (予習)コミュニティ・ビジネスとは何か調べておくこと(45分) (復習)コミュニティを維持するためには、どんな取り組みが有効か考察する(45分)</p> <p>第13回 (予習)震災がコミュニティに与えた影響について調べておくこと(45分) (復習)復興まちづくりにおいて、コミュニティが持つ意義を整理する(45分)</p> <p>第14回 (予習)世界のコミュニティについて調べておくこと(45分) (復習)日本のコミュニティとの相違点整理する(45分)</p> <p>第15回 (予習)第1回から第14回までの講義内容で関心のある事例を調べておくこと (45分) (復習)春学期に学んだことを総合的に整理する(45分)</p> <p>オンデマンド授業について 下記テキストの各章を予習し、視聴後ノートを完成する。 * 授業外学習時間は、60時間必要となる。不足分は休暇等を利用して補うこと。</p>
テキスト	今井照『図解 よくわかる地方自治のしくみ』学陽書房 2011 データサイエンス入門第2版 ISBN978-4-7806-0730-7 学術図書出版社
参考書	適宜指示をします。
成績評価の方法・基準	<p>⑦ ①絶対評価で採点します。</p> <p>②授業内テストと学期末課題で採点します。</p> <p>授業内テストは持ち込み可で行いますので、問題に的確に答えていない場合は不採点とします。</p> <p>学期末課題は、(課題に記載するかどうかは未定ですが)いくつかのキーワードを設定し、そのキーワードが理解され、文章が論理的に構成されているか(相手に伝えやすく書いているか)で採点します。</p> <p>* オンデマンド授業の確認試験評価は、授業中に行う演習評価に含まれます。</p>
URL	
備考	【科目ナンバリング】POL211 初回から講義をします。 必ず出席してください。 【URL】 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/general_policy/shimpou/

開講開始年度	2021
授業コード	3L5001
担当教員	⑥ 坂本 憲二
科目	◇計算力演習Ⅰ／△計算力演習 [1]◆
単位数	⑤ 必修2単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったと考えられる計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPIなどの就職能力適性検査における、「非言語能力試験」及び公務員試験の「数的推理・判断推理」科目の対策を意識して構成されており、いずれも秋学期のより実践的な「計算力演習Ⅱ」に向けて基本的なものを集めている。
学位授与方針の 関連 到達目標	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:「ガイダンス」及び第1講 数の計算1:素因数分解、数値計算のスピードアップ1など素因数分解や計算の工夫等、考えながら計算することを練習し計算の意味を考える。[講義・質疑応答][演習] 第2回:第2講 数の計算2:最大公約数・最小公倍数、数値計算のスピードアップ2など、計算の構造やその意味を考える。応用として、文科系学生が苦手としている分数計算について改めて計算の構造や意味及び計算方法を再確認する。[講義・質疑応答][演習] 第3回:第3講 虫食い算・覆面算:パズル的な問題を通して数の計算の構造を再認識し、論理的に導けるよう練習する。[講義・質疑応答][演習] 第4回:第4講 数列の分析:等差数列の和:数列の規則性について学び、等差数列の和について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:第5講 記数法:文科系の生徒は記数法について学んでいない学生が多いので具体的な例で説明しながら2進法をはじめとしてN進法について学ぶ。また10進法をN進法に、N進法を10進法に変換することも学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:第6講 方程式の解法:数量の文字表現:等式の性質と移項について再認識する。方程式とは何かを学び、等式の性質から一步一步等式を変形させ、1次方程式や連立方程式を解いていく練習をする。また文系の学生にとって苦手である文字を用いて数量を表現する練習もする。[講義・質疑応答][演習] 第7回:第7講 比例式・割合:今後学ぶ様々な単元の基礎として、学生諸君が苦手としている比例と割合の考え方について多角的に学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第8回:第8講 損益算・濃度:比や割合の考え方が基本となっている割引割増などの損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第9回:第9講 速度・仕事算:速さの文章問題については立式できるように、また仕事算については単位当たりの量や全体の量など、比例・割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第10回:第10講 集合:集合の要素の個数をベン図や表を活用して問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になるなど、これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第11回:第11講 論理:簡単なしかし重要である形式論理を学ぶ。条件法の逆・裏・対偶、対偶律や推移律、連言と選言などを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第12回:第12講 場合の数・確率:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・質疑応答][演習] 第13回:第13講 判断推理:パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第14回:総まとめ(1)[まとめ] 第15回:総まとめ(2)[まとめ]

	<p>※適宜「復習小テスト」を実施する。</p> <p>* 課題に対するフィードバックの方法: 課題を与えた場合に対しては後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的内容と必要な標準的な時間	<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的内容と必要な標準的な時間</p> <p>【予習】常に正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)のテキスト内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。またテキストの該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各 60 分程度)</p> <p>第1回:数の計算 1 素因数分解と数値計算のスピードアップ1(p.1-p.8)</p> <p>第2回:数の計算 2 最大公約数・最小公倍数とスピードアップ 2(p.9-p.14)</p> <p>第3回:虫食い算・覆面算(p.15-p.20)</p> <p>第4回:数列の分析・等差数列の和(p.21-p.26)</p> <p>第5回:記数法(p.27-p.32)</p> <p>第6回:方程式の解法・数量の文字表現(p.33-p.38)</p> <p>第7回:比例式・割合(p.39-p.44)</p> <p>第8回:損益算・濃度 (p.45-p.50)</p> <p>第9回:速度・仕事算(p.51-p.58)</p> <p>第10回:集合(p.59-p.64)</p> <p>第11回:論理(p.65-p.70)</p> <p>第12回:場合の数・確率(p.71-p.76)</p> <p>第13回:判断推理(p.77-p.82)</p> <p>第14回:総まとめ(1)</p> <p>第15回:総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックしておくこと。不明部分は質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各 60 分程度)</p> <p>【休日学習】課題(SPI 実践的問題等様々)を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期日までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は 60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
テキスト	<p>基本的には「2021 年度春学期」版のテキストを用意する。</p> <p>(必要に応じて補助プリントを使用する場合もありうる)</p>
参考書	<p>SPI・公務員試験各種対策本(できる限り最新のものが望ましい)</p>
成績評価の方法・基準	<p>平常点(レポート・小テスト・履修状況等を含む)40%、考査 60%</p> <p>原則としては、6 回以上欠席した学生や、考査を受験しなかった学生は E 評価(=評価不能)、D 評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC203</p> <p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中の携帯電話の使用や私語は禁止。他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けられない。</p> <p>教材を保存するファイルは各自で準備する事。</p> <p>その他「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p>

開講開始年度	2021
授業コード	3L5002
担当教員	⑥ 坂本 憲二
科目	◇計算力演習 I / △計算力演習 [2] ◆
単位数	⑤ 必修 2 単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったと考えられる計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPIなどの就職能力適性検査における、「非言語能力試験」及び公務員試験の「数的推理・判断推理」科目の対策を意識して構成されており、いずれも秋学期のより実践的な「計算力演習 II」に向けて基本的なものを集めている。
学位授与方針の 関連 到達目標	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数理処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:「ガイダンス」及び第1講 数の計算1:素因数分解、数値計算のスピードアップ1など素因数分解や計算の工夫等、考えながら計算することを練習し計算の意味を考える。[講義・質疑応答][演習] 第2回:第2講 数の計算2:最大公約数・最小公倍数、数値計算のスピードアップ2など、計算の構造やその意味を考える。応用として、文科系学生が苦手としている分数計算について改めて計算の構造や意味及び計算方法を再確認する。[講義・質疑応答][演習] 第3回:第3講 虫食い算・覆面算:パズル的な問題を通して数の計算の構造を再認識し、論理的に導けるよう練習する。[講義・質疑応答][演習] 第4回:第4講 数列の分析・等差数列の和:数列の規則性について学び、等差数列の和について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:第5講 記数法:文科系の生徒は記数法について学んでない学生が多いので具体的な例で説明しながら2進法をはじめとしてN進法について学ぶ。また10進法をN進法に、N進法を10進法に変換することも学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:第6講 方程式の解法:数量の文字表現:等式の性質と移項について再認識する。方程式とは何かを学び、等式の性質から一步一步等式を変形させ、1次方程式や連立方程式を解いていく練習をする。また文系の学生にとって苦手である文字を用いて数量を表現する練習もする。[講義・質疑応答][演習] 第7回:第7講 比例式・割合:今後学ぶ様々な単元の基礎として、学生諸君が苦手としている比例と割合の考え方について多角的に学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第8回:第8講 損益算・濃度:比や割合の考え方が基本となっている割引割増などの損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第9回:第9講 速度・仕事算:速さの文章問題については立式できるように、また仕事算については単位当たりの量や全体の量など、比例・割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第10回:第10講 集合:集合の要素の個数をベン図や表を活用して問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になるなど、これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第11回:第11講 論理:簡単なしかし重要である形式論理を学ぶ。条件法の逆・裏・対偶、対偶律や推移律、連言と選言などを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第12回:第12講 場合の数・確率:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・質疑応答][演習] 第13回:第13講 判断推理:パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第14回:総まとめ(1)[まとめ]

	<p>第 15 回: 総まとめ(2)[まとめ]</p> <p>※適宜「復習小テスト」を実施する。</p> <p>* 課題に対するフィードバックの方法: 課題を与えた場合に対しては後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p> <p>【予習】常に正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)のテキスト内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。またテキストの該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各 60 分程度)</p> <p>第1回: 数の計算 1 素因数分解と数値計算のスピードアップ1(p.1-p.8)</p> <p>第2回: 数の計算 2 最大公約数・最小公倍数とスピードアップ 2(p.9-p.14)</p> <p>第3回: 虫食い算・覆面算(p.15-p.20)</p> <p>第4回: 数列の分析・等差数列の和(p.21-p.26)</p> <p>第5回: 記数法(p.27-p.32)</p> <p>第6回: 方程式の解法・数量の文字表現(p.33-p.38)</p> <p>第7回: 比例式・割合(p.39-p.44)</p> <p>第8回: 損益算・濃度 (p.45-p.50)</p> <p>第9回: 速度・仕事算(p.51-p.58)</p> <p>第 10 回: 集合(p.59-p.64)</p> <p>第 11 回: 論理(p.65-p.70)</p> <p>第 12 回: 場合の数・確率(p.71-p.76)</p> <p>第 13 回: 判断推理(p.77-p.82)</p> <p>第 14 回: 総まとめ(1)</p> <p>第 15 回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックしておくこと。不明部分は質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各 60 分程度)</p> <p>【休日学習】課題(SPI 実践的問題等様々)を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は 60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
テキスト	<p>基本的には「2021 年度春学期」版のテキストを用意する。</p> <p>(必要に応じて補助プリントを使用する場合もありうる)</p>
参考書	<p>SPI・公務員試験各種対策本(できる限り最新のものが見たい)</p>
成績評価の方法・基準	<p>平常点(レポート・小テスト・履修状況等を含む)40%、考査 60%</p> <p>⑦原則としては、6 回以上欠席した学生や、考査を受験しなかった学生は E 評価(=評価不能)、D 評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC203</p> <p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中の携帯電話の使用や私語は禁止。他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けられない。</p> <p>教材を保存するファイルは各自で準備する事。</p> <p>その他「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p>

開講開始年度	2021
授業コード	3L5003
担当教員	⑥ 坂本 憲二
科目	◇計算力演習 I / △計算力演習 [3] ◆
単位数	⑤ 必修 2 単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったと考えられる計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPIなどの就職能力適性検査における、「非言語能力試験」及び公務員試験の「数的推理・判断推理」科目の対策を意識して構成されており、いずれも秋学期のより実践的な「計算力演習 II」に向けて基本的なものを集めている。
学位授与方針の 関連 到達目標	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数理処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:「ガイダンス」及び第1講 数の計算1:素因数分解、数値計算のスピードアップ1など素因数分解や計算の工夫等、考えながら計算することを練習し計算の意味を考える。[講義・質疑応答][演習] 第2回:第2講 数の計算2:最大公約数・最小公倍数、数値計算のスピードアップ2など、計算の構造やその意味を考える。応用として、文科系学生が苦手としている分数計算について改めて計算の構造や意味及び計算方法を再確認する。[講義・質疑応答][演習] 第3回:第3講 虫食い算・覆面算:パズル的な問題を通して数の計算の構造を再認識し、論理的に導けるよう練習する。[講義・質疑応答][演習] 第4回:第4講 数列の分析・等差数列の和:数列の規則性について学び、等差数列の和について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:第5講 記数法:文科系の生徒は記数法について学んでない学生が多いので具体的な例で説明しながら2進法をはじめとしてN進法について学ぶ。また10進法をN進法に、N進法を10進法に変換することも学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:第6講 方程式の解法:数量の文字表現:等式の性質と移項について再認識する。方程式とは何かを学び、等式の性質から一步一步等式を変形させ、1次方程式や連立方程式を解いていく練習をする。また文系の学生にとって苦手である文字を用いて数量を表現する練習もする。[講義・質疑応答][演習] 第7回:第7講 比例式・割合:今後学ぶ様々な単元の基礎として、学生諸君が苦手としている比例と割合の考え方について多角的に学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第8回:第8講 損益算・濃度:比や割合の考え方が基本となっている割引割増などの損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第9回:第9講 速度・仕事算:速さの文章問題については立式できるように、また仕事算については単位当たりの量や全体の量など、比例・割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第10回:第10講 集合:集合の要素の個数をベン図や表を活用して問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になるなど、これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第11回:第11講 論理:簡単なしかし重要である形式論理を学ぶ。条件法の逆・裏・対偶、対偶律や推移律、連言と選言などを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第12回:第12講 場合の数・確率:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・質疑応答][演習] 第13回:第13講 判断推理:パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第14回:総まとめ(1)[まとめ]

	<p>第 15 回: 総まとめ(2)[まとめ]</p> <p>※適宜「復習小テスト」を実施する。</p> <p>* 課題に対するフィードバックの方法: 課題を与えた場合に対しては後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意) 初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p> <p>【予習】常に正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)のテキスト内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。またテキストの該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各 60 分程度)</p> <p>第1回: 数の計算 1 素因数分解と数値計算のスピードアップ1(p.1-p.8)</p> <p>第2回: 数の計算 2 最大公約数・最小公倍数とスピードアップ 2(p.9-p.14)</p> <p>第3回: 虫食い算・覆面算(p.15-p.20)</p> <p>第4回: 数列の分析・等差数列の和(p.21-p.26)</p> <p>第5回: 記数法(p.27-p.32)</p> <p>第6回: 方程式の解法・数量の文字表現(p.33-p.38)</p> <p>第7回: 比例式・割合(p.39-p.44)</p> <p>第8回: 損益算・濃度 (p.45-p.50)</p> <p>第9回: 速度・仕事算(p.51-p.58)</p> <p>第 10 回: 集合(p.59-p.64)</p> <p>第 11 回: 論理(p.65-p.70)</p> <p>第 12 回: 場合の数・確率(p.71-p.76)</p> <p>第 13 回: 判断推理(p.77-p.82)</p> <p>第 14 回: 総まとめ(1)</p> <p>第 15 回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックしておくこと。不明部分は質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各 60 分程度)</p> <p>【休日学習】課題(SPI 実践的問題等様々)を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は 60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
テキスト	<p>基本的には「2021 年度春学期」版のテキストを用意する。</p> <p>(必要に応じて補助プリントを使用する場合もありうる)</p>
参考書	SPI・公務員試験各種対策本(できる限り最新のものが見たい)
成績評価の方法・基準	<p>平常点(レポート・小テスト・履修状況等を含む)40%、考査 60%</p> <p>⑦ 原則としては、6 回以上欠席した学生や、考査を受験しなかった学生は E 評価(=評価不能)、D 評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC203</p> <p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中の携帯電話の使用や私語は禁止。他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けられない。</p> <p>教材を保存するファイルは各自で準備する事。</p> <p>その他「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p>

開講開始年度	2021
授業コード	3L5004
担当教員	⑥ 真保 俊哉
科目	◇計算力演習 I / △計算力演習 [4]◆
単位数	⑤ 必修 2 単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったと考えられる計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPIなどの就職能力適性検査における、「非言語能力試験」及び公務員試験の「数的推理・判断推理」科目の対策を意識して構成されており、いずれも秋学期のより実践的な「計算力演習 II」に向けて基本的なものを集めている。
学位授与方針の 関連 到達目標	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数理処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:「ガイダンス」及び第1講 数の計算1:素因数分解、数値計算のスピードアップ1など素因数分解や計算の工夫等、考えながら計算することを練習し計算の意味を考える。[講義・質疑応答][演習] 第2回:第2講 数の計算2:最大公約数・最小公倍数、数値計算のスピードアップ2など、計算の構造やその意味を考える。応用として、文科系学生が苦手としている分数計算について改めて計算の構造や意味及び計算方法を再確認する。[講義・質疑応答][演習] 第3回:第3講 虫食い算・覆面算:パズル的な問題を通して数の計算の構造を再認識し、論理的に導けるよう練習する。[講義・質疑応答][演習] 第4回:第4講 数列の分析・等差数列の和:数列の規則性について学び、等差数列の和について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:第5講 記数法:文科系の生徒は記数法について学んでない学生が多いので具体的な例で説明しながら2進法をはじめとしてN進法について学ぶ。また10進法をN進法に、N進法を10進法に変換することも学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:第6講 方程式の解法:数量の文字表現:等式の性質と移項について再認識する。方程式とは何かを学び、等式の性質から一步一步等式を変形させ、1次方程式や連立方程式を解いていく練習をする。また文系の学生にとって苦手である文字を用いて数量を表現する練習もする。[講義・質疑応答][演習] 第7回:第7講 比例式・割合:今後学ぶ様々な単元の基礎として、学生諸君が苦手としている比例と割合の考え方について多角的に学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第8回:第8講 損益算・濃度:比や割合の考え方が基本となっている割引割増などの損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第9回:第9講 速度・仕事算:速さの文章問題については立式できるように、また仕事算については単位当たりの量や全体の量など、比例・割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第10回:第10講 集合:集合の要素の個数をベン図や表を活用して問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になるなど、これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第11回:第11講 論理:簡単なしかし重要である形式論理を学ぶ。条件法の逆・裏・対偶、対偶律や推移律、連言と選言などを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第12回:第12講 場合の数・確率:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・質疑応答][演習] 第13回:第13講 判断推理:パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第14回:総まとめ(1)[まとめ]

	<p>第 15 回: 総まとめ(2)[まとめ]</p> <p>※適宜「復習小テスト」を実施する。</p> <p>* 課題に対するフィードバックの方法: 課題を与えた場合に対しては後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p> <p>【予習】常に正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)のテキスト内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。またテキストの該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各 60 分程度)</p> <p>第1回: 数の計算 1 素因数分解と数値計算のスピードアップ1(p.1-p.8)</p> <p>第2回: 数の計算 2 最大公約数・最小公倍数とスピードアップ 2(p.9-p.14)</p> <p>第3回: 虫食い算・覆面算(p.15-p.20)</p> <p>第4回: 数列の分析・等差数列の和(p.21-p.26)</p> <p>第5回: 記数法(p.27-p.32)</p> <p>第6回: 方程式の解法・数量の文字表現(p.33-p.38)</p> <p>第7回: 比例式・割合(p.39-p.44)</p> <p>第8回: 損益算・濃度 (p.45-p.50)</p> <p>第9回: 速度・仕事算(p.51-p.58)</p> <p>第 10 回: 集合(p.59-p.64)</p> <p>第 11 回: 論理(p.65-p.70)</p> <p>第 12 回: 場合の数・確率(p.71-p.76)</p> <p>第 13 回: 判断推理(p.77-p.82)</p> <p>第 14 回: 総まとめ(1)</p> <p>第 15 回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックしておくこと。不明部分は質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各 60 分程度)</p> <p>【休日学習】課題(SPI 実践的問題等様々)を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期日までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は 60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
テキスト	<p>基本的には≪2021 年度春学期≫版のテキストを用意する。</p> <p>(必要に応じて補助プリントを使用する場合もありうる)</p>
参考書	SPI・公務員試験各種対策本(できる限り最新のものが見たい)
成績評価の方法・基準 ⑦	<p>平常点(レポート・小テスト・履修状況等を含む)40%、考査 60%</p> <p>原則としては、6 回以上欠席した学生や、考査を受験しなかった学生は E 評価(=評価不能)、D 評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC203</p> <p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中の携帯電話の使用や私語は禁止。他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けられない。</p>

教材を保存するファイルは各自で準備する事。 その他「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。

開講開始年度	2021
授業コード	3L5005
担当教員	⑥ 真保 俊哉
科目	◇計算力演習 I / △計算力演習 [5] ◆
単位数	⑤ 必修 2 単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったと考えられる計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPIなどの就職能力適性検査における、「非言語能力試験」及び公務員試験の「数的推理・判断推理」科目の対策を意識して構成されており、いずれも秋学期のより実践的な「計算力演習 II」に向けて基本的なものを集めている。
学位授与方針の ① 関連 到達目標	(4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数理処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:「ガイダンス」及び第1講 数の計算1:素因数分解、数値計算のスピードアップ1など素因数分解や計算の工夫等、考えながら計算することを練習し計算の意味を考える。[講義・質疑応答][演習] 第2回:第2講 数の計算2:最大公約数・最小公倍数、数値計算のスピードアップ2など、計算の構造やその意味を考える。応用として、文科系学生が苦手としている分数計算について改めて計算の構造や意味及び計算方法を再確認する。[講義・質疑応答][演習] 第3回:第3講 虫食い算・覆面算:パズル的な問題を通して数の計算の構造を再認識し、論理的に導けるよう練習する。[講義・質疑応答][演習] 第4回:第4講 数列の分析・等差数列の和:数列の規則性について学び、等差数列の和について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:第5講 記数法:文科系の生徒は記数法について学んでない学生が多いので具体的な例で説明しながら2進法をはじめとしてN進法について学ぶ。また10進法をN進法に、N進法を10進法に変換することも学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:第6講 方程式の解法:数量の文字表現:等式の性質と移項について再認識する。方程式とは何かを学び、等式の性質から一步一步等式を変形させ、1次方程式や連立方程式を解いていく練習をする。また文系の学生にとって苦手である文字を用いて数量を表現する練習もする。[講義・質疑応答][演習] 第7回:第7講 比例式・割合:今後学ぶ様々な単元の基礎として、学生諸君が苦手としている比例と割合の考え方について多角的に学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第8回:第8講 損益算・濃度:比や割合の考え方が基本となっている割引割増などの損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第9回:第9講 速度・仕事算:速さの文章問題については立式できるように、また仕事算については単位当たりの量や全体の量など、比例・割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第10回:第10講 集合:集合の要素の個数をベン図や表を活用して問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になるなど、これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第11回:第11講 論理:簡単なしかし重要である形式論理を学ぶ。条件法の逆・裏・対偶、対偶律や推移律、連言と選言などを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第12回:第12講 場合の数・確率:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・質疑応答][演習] 第13回:第13講 判断推理:パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第14回:総まとめ(1)[まとめ]

	<p>第 15 回: 総まとめ(2)[まとめ]</p> <p>※適宜「復習小テスト」を実施する。</p> <p>* 課題に対するフィードバックの方法: 課題を与えた場合に対しては後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p> <p>【予習】常に正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)のテキスト内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。またテキストの該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各 60 分程度)</p> <p>第1回: 数の計算 1 素因数分解と数値計算のスピードアップ1(p.1-p.8)</p> <p>第2回: 数の計算 2 最大公約数・最小公倍数とスピードアップ 2(p.9-p.14)</p> <p>第3回: 虫食い算・覆面算(p.15-p.20)</p> <p>第4回: 数列の分析・等差数列の和(p.21-p.26)</p> <p>第5回: 記数法(p.27-p.32)</p> <p>第6回: 方程式の解法・数量の文字表現(p.33-p.38)</p> <p>第7回: 比例式・割合(p.39-p.44)</p> <p>第8回: 損益算・濃度 (p.45-p.50)</p> <p>第9回: 速度・仕事算(p.51-p.58)</p> <p>第 10 回: 集合(p.59-p.64)</p> <p>第 11 回: 論理(p.65-p.70)</p> <p>第 12 回: 場合の数・確率(p.71-p.76)</p> <p>第 13 回: 判断推理(p.77-p.82)</p> <p>第 14 回: 総まとめ(1)</p> <p>第 15 回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックしておくこと。不明部分は質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各 60 分程度)</p> <p>【休日学習】課題(SPI 実践的問題等様々)を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期日までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は 60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
テキスト	<p>基本的には「2021 年度春学期」版のテキストを用意する。</p> <p>(必要に応じて補助プリントを使用する場合もありうる)</p>
参考書	SPI・公務員試験各種対策本(できる限り最新のものが見たい)
成績評価の方法・基準	<p>平常点(レポート・小テスト・履修状況等を含む)40%、考査 60%</p> <p>原則としては、6 回以上欠席した学生や、考査を受験しなかった学生は E 評価(=評価不能)、D 評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC203</p> <p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中の携帯電話の使用や私語は禁止。他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けられない。</p>

教材を保存するファイルは各自で準備する事。 その他「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。

開講開始年度	2021
授業コード	3L5006
担当教員	⑥ 真保 俊哉
科目	◇計算力演習 I / △計算力演習 [6] ◆
単位数	⑤ 必修 2 単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったと考えられる計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPIなどの就職能力適性検査における、「非言語能力試験」及び公務員試験の「数的推理・判断推理」科目の対策を意識して構成されており、いずれも秋学期のより実践的な「計算力演習 II」に向けて基本的なものを集めている。
学位授与方針の 関連 到達目標	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数理処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:「ガイダンス」及び第1講 数の計算1:素因数分解、数値計算のスピードアップ1など素因数分解や計算の工夫等、考えながら計算することを練習し計算の意味を考える。[講義・質疑応答][演習] 第2回:第2講 数の計算2:最大公約数・最小公倍数、数値計算のスピードアップ2など、計算の構造やその意味を考える。応用として、文科系学生が苦手としている分数計算について改めて計算の構造や意味及び計算方法を再確認する。[講義・質疑応答][演習] 第3回:第3講 虫食い算・覆面算:パズル的な問題を通して数の計算の構造を再認識し、論理的に導けるよう練習する。[講義・質疑応答][演習] 第4回:第4講 数列の分析・等差数列の和:数列の規則性について学び、等差数列の和について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:第5講 記数法:文科系の生徒は記数法について学んでない学生が多いので具体的な例で説明しながら2進法をはじめとしてN進法について学ぶ。また10進法をN進法に、N進法を10進法に変換することも学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:第6講 方程式の解法:数量の文字表現:等式の性質と移項について再認識する。方程式とは何かを学び、等式の性質から一步一步等式を変形させ、1次方程式や連立方程式を解いていく練習をする。また文系の学生にとって苦手である文字を用いて数量を表現する練習もする。[講義・質疑応答][演習] 第7回:第7講 比例式・割合:今後学ぶ様々な単元の基礎として、学生諸君が苦手としている比例と割合の考え方について多角的に学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第8回:第8講 損益算・濃度:比や割合の考え方が基本となっている割引割増などの損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第9回:第9講 速度・仕事算:速さの文章問題については立式できるように、また仕事算については単位当たりの量や全体の量など、比例・割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第10回:第10講 集合:集合の要素の個数をベン図や表を活用して問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になるなど、これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第11回:第11講 論理:簡単なしかし重要である形式論理を学ぶ。条件法の逆・裏・対偶、対偶律や推移律、連言と選言などを学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第12回:第12講 場合の数・確率:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・質疑応答][演習] 第13回:第13講 判断推理:パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第14回:総まとめ(1)[まとめ]

	<p>第 15 回:総まとめ(2)[まとめ]</p> <p>※適宜「復習小テスト」を実施する。</p> <p>* 課題に対するフィードバックの方法:課題を与えた場合に対しては後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間</p> <p>【予習】常に正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)のテキスト内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。またテキストの該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各 60 分程度)</p> <p>第1回:数の計算 1 素因数分解と数値計算のスピードアップ1(p.1-p.8)</p> <p>第2回:数の計算 2 最大公約数・最小公倍数とスピードアップ 2(p.9-p.14)</p> <p>第3回:虫食い算・覆面算(p.15-p.20)</p> <p>第4回:数列の分析・等差数列の和(p.21-p.26)</p> <p>第5回:記数法(p.27-p.32)</p> <p>第6回:方程式の解法・数量の文字表現(p.33-p.38)</p> <p>第7回:比例式・割合(p.39-p.44)</p> <p>第8回:損益算・濃度 (p.45-p.50)</p> <p>第9回:速度・仕事算(p.51-p.58)</p> <p>第 10 回:集合(p.59-p.64)</p> <p>第 11 回:論理(p.65-p.70)</p> <p>第 12 回:場合の数・確率(p.71-p.76)</p> <p>第 13 回:判断推理(p.77-p.82)</p> <p>第 14 回:総まとめ(1)</p> <p>第 15 回:総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックしておくこと。不明部分は質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各 60 分程度)</p> <p>【休日学習】課題(SPI 実践的問題等様々)を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期日までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は 60 時間必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p>
テキスト	<p>基本的には≪2021 年度春学期≫版のテキストを用意する。</p> <p>(必要に応じて補助プリントを使用する場合もありうる)</p>
参考書	SPI・公務員試験各種対策本(できる限り最新のものが望ましい)
成績評価の方法・基準 ⑦	<p>平常点(レポート・小テスト・履修状況等を含む)40%、考査 60%</p> <p>原則としては、6 回以上欠席した学生や、考査を受験しなかった学生は E 評価(=評価不能)、D 評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC203</p> <p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中の携帯電話の使用や私語は禁止。他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けれない。</p>

教材を保存するファイルは各自で準備する事。 その他「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。

開講開始年度	2021
授業コード	3L6001
担当教員	⑥ 坂本 憲二
科目	◇計算力演習Ⅱ [1]◆
単位数	⑤ 必修2単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったであろう計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPI(特に就職能力適性検査の「非言語能力試験」)や公務員試験「数的推理・判断推理」分野等を意識したより実戦的で新たな問題群で構成されている。春学期で受講した「計算力演習Ⅰ」を基礎として、秋学期の「計算力演習Ⅱ」は、より実戦的な演習に重点を置いて進めていきたい。
学位授与方針の関連	(4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。
到達目標	① (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数理処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:図表の読み取り方(1):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] ※授業の初めに第0回として「ガイダンス」を実施する。 第2回:図表の読み取り方(2):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第3回:判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第4回:判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:判断推理・推論③:複数選択問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:判断推理・推論④:内訳問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習]答[演習] 第7回:確率・場合の数①:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第8回:確率・場合の数②:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第9回:集合:ベン図や特に「表」を描くことによって問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になる。これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第10回:「速さ」:時刻表の問題や旅人算等、速さの文章問題については立式できるように練習する。[講義・(質疑応答)][演習] 第11回:損益算・分割払い:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第12回:割引・精算:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第13回:仕事算:仕事算については比例と割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第14回:総まとめ[講義・(質疑応答)][演習] 第15回:総まとめ(2)[講義・(質疑応答)][演習] ※適宜「復習小テスト」を実施する。 * 課題に対するフィードバックの方法:「復習小テスト」を実施した場合には後日の授業において解答を配布し簡

	<p>単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。(特に授業の進捗状況によっては第 13 回目と第 14 回目の内容の変更が有得る。)</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>【予習】常には正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)の授業内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。また配布された問題等の該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各 80 分程度)</p> <p>第1回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第2回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第3回: 判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等</p> <p>第4回: 判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等</p> <p>第5回: 判断推理・推論③:複数選択問題等</p> <p>第6回: 判断推理・推論④:内訳問題等</p> <p>第7回: 確率・場合の数①</p> <p>第8回: 確率・場合の数②</p> <p>第9回: 集合</p> <p>第10回: 「速さ」:時刻表の問題や旅人算等</p> <p>第11回: 損益算・分割払い</p> <p>第12回: 割引・精算</p> <p>第13回: 仕事算</p> <p>第14回: 総まとめ</p> <p>第15回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックし質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各 80 分~程度)</p> <p>【休日学習】「レポート課題」を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期限までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は 80 時間~必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p> <p>【レポートについて】</p> <p>※以下の1~2に該当しない場合は、レポートは受け取らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容は答えのみでなく必ず結論に至るまでの理由等を記述すること 2. 時間厳守(必ず提出日時までに提出)
テキスト	本学独自の 2021 年度<< 秋学期 >>テキストを使用する。
参考書	SPI や公務員試験の各種対策本(できる限り最新のものが望ましい。)
成績評価の方法・基準	<p>⑦ 平常点(ノート提出・ルーブリック自己評価[毎回提出]・レポート・小テスト・履修状況等含む)40%、試験 60%(web 試験の場合は平常点の方にウェイトが掛かる等の変更あり)で決定する。</p> <p>また、原則としては、6 回以上欠席した場合は、E 評価(=評価不能)。平常点及び試験得点等の不足は、D 評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC204</p> <p>「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p> <p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中は集中して受講のこと。</p> <p>他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けれない。</p>

開講開始年度	2021
授業コード	3L6002
担当教員	⑥ 坂本 憲二
科目	◇計算力演習Ⅱ [2]◆
単位数	⑤ 必修2単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったであろう計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPI(特に就職能力適性検査の「非言語能力試験」)や公務員試験「数的推理・判断推理」分野等を意識したより実戦的で新たな問題群で構成されている。春学期で受講した「計算力演習Ⅰ」を基礎として、秋学期の「計算力演習Ⅱ」は、より実戦的な演習に重点を置いて進めていきたい。
学位授与方針の関連	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:図表の読み取り方(1):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] ※授業の初めに第0回として「ガイダンス」を実施する。 第2回:図表の読み取り方(2):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第3回:判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第4回:判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:判断推理・推論③:複数選択問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:判断推理・推論④:内訳問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習]答[演習] 第7回:確率・場合の数①:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第8回:確率・場合の数②:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第9回:集合:ベン図や特に「表」を描くことによって問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になる。これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第10回:「速さ」:時刻表の問題や旅人算等、速さの文章問題については立式できるように練習する。[講義・(質疑応答)][演習] 第11回:損益算・分割払い:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第12回:割引・精算:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第13回:仕事算:仕事算については比例と割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第14回:総まとめ[講義・(質疑応答)][演習] 第15回:総まとめ(2)[講義・(質疑応答)][演習] ※適宜「復習小テスト」を実施する。

	<p>* 課題に対するフィードバックの方法:「復習小テスト」を実施した場合には後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。(特に授業の進捗状況によっては第13回目と第14回目の内容の変更が有得る。)</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>【予習】常には正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)の授業内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。また配布された問題等の該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各80分程度)</p> <p>第1回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第2回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第3回: 判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等</p> <p>第4回: 判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等</p> <p>第5回: 判断推理・推論③:複数選択問題等</p> <p>第6回: 判断推理・推論④:内訳問題等</p> <p>第7回: 確率・場合の数①</p> <p>第8回: 確率・場合の数②</p> <p>第9回: 集合</p> <p>第10回: 「速さ」:時刻表の問題や旅人算等</p> <p>第11回: 損益算・分割払い</p> <p>第12回: 割引・精算</p> <p>第13回: 仕事算</p> <p>第14回: 総まとめ</p> <p>第15回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックし質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各80分~程度)</p> <p>【休日学習】「レポート課題」を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期限までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は80時間~必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p> <p>【レポートについて】</p> <p>※以下の1~2に該当しない場合は、レポートは受け取らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容は答えのみでなく必ず結論に至るまでの理由等を記述すること 2. 時間厳守(必ず提出日時までに提出)
テキスト	本学独自の2021年度<<秋学期>>テキストを使用する。
参考書	SPIや公務員試験の各種対策本(できる限り最新のものが望ましい。)
⑦ 成績評価の方法・基準	<p>平常点(ノート提出・ルーブリック自己評価[毎回提出]・レポート・小テスト・履修状況等含む)40%、試験60%(web試験の場合は平常点の方にウェイトが掛かる等の変更あり)で決定する。</p> <p>また、原則としては、6回以上欠席した場合は、E評価(=評価不能)。平常点及び試験得点等の不足は、D評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC204</p> <p>「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p> <p>指定クラスで履修する事。</p>

授業中は集中して受講のこと。

他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けれない。

開講開始年度	2021
授業コード	3L6003
担当教員	⑥ 坂本 憲二
科目	◇計算力演習Ⅱ [3]◆
単位数	⑤ 必修2単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったであろう計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPI(特に就職能力適性検査の「非言語能力試験」)や公務員試験「数的推理・判断推理」分野等を意識したより実戦的で新たな問題群で構成されている。春学期で受講した「計算力演習Ⅰ」を基礎として、秋学期の「計算力演習Ⅱ」は、より実戦的な演習に重点を置いて進めていきたい。
学位授与方針の関連	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数値処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:図表の読み取り方(1):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] ※授業の初めに第0回として「ガイダンス」を実施する。 第2回:図表の読み取り方(2):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第3回:判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第4回:判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:判断推理・推論③:複数選択問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:判断推理・推論④:内訳問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習]答[演習] 第7回:確率・場合の数①:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第8回:確率・場合の数②:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第9回:集合:ベン図や特に「表」を描くことによって問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になる。これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第10回:「速さ」:時刻表の問題や旅人算等、速さの文章問題については立式できるように練習する。[講義・(質疑応答)][演習] 第11回:損益算・分割払い:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第12回:割引・精算:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第13回:仕事算:仕事算については比例と割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第14回:総まとめ[講義・(質疑応答)][演習] 第15回:総まとめ(2)[講義・(質疑応答)][演習] ※適宜「復習小テスト」を実施する。

	<p>* 課題に対するフィードバックの方法:「復習小テスト」を実施した場合には後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。(特に授業の進捗状況によっては第13回目と第14回目の内容の変更が有得る。)</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>【予習】常には正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)の授業内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。また配布された問題等の該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各80分程度)</p> <p>第1回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第2回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第3回: 判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等</p> <p>第4回: 判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等</p> <p>第5回: 判断推理・推論③:複数選択問題等</p> <p>第6回: 判断推理・推論④:内訳問題等</p> <p>第7回: 確率・場合の数①</p> <p>第8回: 確率・場合の数②</p> <p>第9回: 集合</p> <p>第10回: 「速さ」:時刻表の問題や旅人算等</p> <p>第11回: 損益算・分割払い</p> <p>第12回: 割引・精算</p> <p>第13回: 仕事算</p> <p>第14回: 総まとめ</p> <p>第15回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックし質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各80分~程度)</p> <p>【休日学習】「レポート課題」を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期限までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は80時間~必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p> <p>【レポートについて】</p> <p>※以下の1~2に該当しない場合は、レポートは受け取らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容は答えのみでなく必ず結論に至るまでの理由等を記述すること 2. 時間厳守(必ず提出日時までに提出)
テキスト	本学独自の2021年度<<秋学期>>テキストを使用する。
参考書	SPIや公務員試験の各種対策本(できる限り最新のものが望ましい。)
⑦ 成績評価の方法・基準	<p>平常点(ノート提出・ルーブリック自己評価[毎回提出]・レポート・小テスト・履修状況等含む)40%、試験60%(web試験の場合は平常点の方にウェイトが掛かる等の変更あり)で決定する。</p> <p>また、原則としては、6回以上欠席した場合は、E評価(=評価不能)。平常点及び試験得点等の不足は、D評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC204</p> <p>「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p> <p>指定クラスで履修する事。</p>

授業中は集中して受講のこと。

他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けれない。

開講開始年度	2021
授業コード	3L6004
担当教員	⑥ 真保 俊哉
科目	◇計算力演習Ⅱ [4]◆
単位数	⑤ 必修2単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったであろう計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPI(特に就職能力適性検査の「非言語能力試験」)や公務員試験「数的推理・判断推理」分野等を意識したより実戦的で新たな問題群で構成されている。春学期で受講した「計算力演習Ⅰ」を基礎として、秋学期の「計算力演習Ⅱ」は、より実戦的な演習に重点を置いて進めていきたい。
学位授与方針の関連	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数理処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:図表の読み取り方(1):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] ※授業の初めに第0回として「ガイダンス」を実施する。 第2回:図表の読み取り方(2):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第3回:判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第4回:判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:判断推理・推論③:複数選択問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:判断推理・推論④:内訳問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習]答[演習] 第7回:確率・場合の数①:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第8回:確率・場合の数②:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第9回:集合:ベン図や特に「表」を描くことによって問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になる。これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第10回:「速さ」:時刻表の問題や旅人算等、速さの文章問題については立式できるように練習する。[講義・(質疑応答)][演習] 第11回:損益算・分割払い:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第12回:割引・精算:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第13回:仕事算:仕事算については比例と割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第14回:総まとめ[講義・(質疑応答)][演習] 第15回:総まとめ(2)[講義・(質疑応答)][演習]

	<p>※適宜「復習小テスト」を実施する。</p> <p>* 課題に対するフィードバックの方法:「復習小テスト」を実施した場合には後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。(特に授業の進捗状況によっては第 13 回目と第 14 回目の内容の変更が有得る。)</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>【予習】常には正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)の授業内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。また配布された問題等の該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各 80 分程度)</p> <p>第1回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第2回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第3回: 判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等</p> <p>第4回: 判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等</p> <p>第5回: 判断推理・推論③:複数選択問題等</p> <p>第6回: 判断推理・推論④:内訳問題等</p> <p>第7回: 確率・場合の数①</p> <p>第8回: 確率・場合の数②</p> <p>第9回: 集合</p> <p>第10回: 「速さ」:時刻表の問題や旅人算等</p> <p>第11回: 損益算・分割払い</p> <p>第12回: 割引・精算</p> <p>第13回: 仕事算</p> <p>第14回: 総まとめ</p> <p>第15回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックし質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各 80 分~程度)</p> <p>【休日学習】「レポート課題」を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期限までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は 80 時間~必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p> <p>【レポートについて】</p> <p>※以下の1~2に該当しない場合は、レポートは受け取らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容は答えのみでなく必ず結論に至るまでの理由等を記述すること 2. 時間厳守(必ず提出日時までに提出)
テキスト	本学独自の 2021 年度《秋学期》テキストを使用する。
参考書	SPI や公務員試験の各種対策本(できる限り最新のものが望ましい。)
成績評価の方法・基準	<p>⑦ 平常点(ノート提出・ルーブリック自己評価[毎回提出]・レポート・小テスト・履修状況等含む)40%、試験 60%(web 試験の場合は平常点の方にウェイトが掛かる等の変更あり)で決定する。</p> <p>また、原則としては、6 回以上欠席した場合は、E 評価(=評価不能)。平常点及び試験得点等の不足は、D 評価(単位未修得)とする。</p>
URL	

備考	<p>【科目ナンバリング】CBC204</p> <p>「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p> <p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中は集中して受講のこと。</p> <p>他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けれない。</p>
----	--

開講開始年度	2021
授業コード	3L6005
担当教員	⑥ 真保 俊哉
科目	◇計算力演習Ⅱ [5]◆
単位数	⑤ 必修2単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったであろう計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPI(特に就職能力適性検査の「非言語能力試験」)や公務員試験「数的推理・判断推理」分野等を意識したより実戦的で新たな問題群で構成されている。春学期で受講した「計算力演習Ⅰ」を基礎として、秋学期の「計算力演習Ⅱ」は、より実戦的な演習に重点を置いて進めていきたい。
学位授与方針の関連	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:図表の読み取り方(1):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] ※授業の初めに第0回として「ガイダンス」を実施する。 第2回:図表の読み取り方(2):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第3回:判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第4回:判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:判断推理・推論③:複数選択問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:判断推理・推論④:内訳問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習]答[演習] 第7回:確率・場合の数①:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第8回:確率・場合の数②:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第9回:集合:ベン図や特に「表」を描くことによって問題内容や条件が単純化・明確化でき解くことが容易になる。これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第10回:「速さ」:時刻表の問題や旅人算等、速さの文章問題については立式できるように練習する。[講義・(質疑応答)][演習] 第11回:損益算・分割払い:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第12回:割引・精算:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第13回:仕事算:仕事算については比例と割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第14回:総まとめ[講義・(質疑応答)][演習] 第15回:総まとめ(2)[講義・(質疑応答)][演習] ※適宜「復習小テスト」を実施する。

	<p>* 課題に対するフィードバックの方法:「復習小テスト」を実施した場合には後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。(特に授業の進捗状況によっては第13回目と第14回目の内容の変更が有得る。)</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>【予習】常には正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)の授業内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。また配布された問題等の該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各80分程度)</p> <p>第1回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第2回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第3回: 判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等</p> <p>第4回: 判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等</p> <p>第5回: 判断推理・推論③:複数選択問題等</p> <p>第6回: 判断推理・推論④:内訳問題等</p> <p>第7回: 確率・場合の数①</p> <p>第8回: 確率・場合の数②</p> <p>第9回: 集合</p> <p>第10回: 「速さ」:時刻表の問題や旅人算等</p> <p>第11回: 損益算・分割払い</p> <p>第12回: 割引・精算</p> <p>第13回: 仕事算</p> <p>第14回: 総まとめ</p> <p>第15回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックし質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各80分~程度)</p> <p>【休日学習】「レポート課題」を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期限までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は80時間~必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p> <p>【レポートについて】</p> <p>※以下の1~2に該当しない場合は、レポートは受け取らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容は答えのみでなく必ず結論に至るまでの理由等を記述すること 2. 時間厳守(必ず提出日時までに提出)
テキスト	本学独自の2021年度<<秋学期>>テキストを使用する。
参考書	SPIや公務員試験の各種対策本(できる限り最新のものが望ましい。)
成績評価の方法・基準	<p>⑦ 平常点(ノート提出・ルーブリック自己評価[毎回提出]・レポート・小テスト・履修状況等含む)40%、試験60%(web試験の場合は平常点の方にウェイトが掛かる等の変更あり)で決定する。</p> <p>また、原則としては、6回以上欠席した場合は、E評価(=評価不能)。平常点及び試験得点等の不足は、D評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC204</p> <p>「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p>

<p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中は集中して受講のこと。</p> <p>他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けれない。</p>

開講開始年度	2021
授業コード	3L6006
担当教員	⑥ 真保 俊哉
科目	◇計算力演習Ⅱ [6]◆
単位数	⑤ 必修2単位
授業概要	③ 2年次生の必修科目として本科目が設定されている。高校卒業後、比較的接する機会の少なかったであろう計算能力や数学的思考力の涵養と、社会科学における計量的手法や論理的思考のトレーニングを兼ね、問題演習方式で実施する。授業内容は、多くの企業において就職試験で用いられているSPI(特に就職能力適性検査の「非言語能力試験」)や公務員試験「数的推理・判断推理」分野等を意識したより実戦的で新たな問題群で構成されている。春学期で受講した「計算力演習Ⅰ」を基礎として、秋学期の「計算力演習Ⅱ」は、より実戦的な演習に重点を置いて進めていきたい。
学位授与方針の関連	① (4)ビジネス・ベーシック・スキルを養う。 (社会人としての活動に最低限必要な論理的思考力・数処理・計算能力の獲得)
授業計画	②④ 第1回:図表の読み取り方(1):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] ※授業の初めに第0回として「ガイダンス」を実施する。 第2回:図表の読み取り方(2):様々な図表の読み取り方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第3回:判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第4回:判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第5回:判断推理・推論③:複数選択問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・質疑応答][演習] 第6回:判断推理・推論④:内訳問題等、パズル的な問題を通して論理的な考え方を学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習]答[演習] 第7回:確率・場合の数①:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第8回:確率・場合の数②:学生の大部分が苦手としている場合の数、特に順列の計算方法や組み合わせの計算方法を学ぶ。また確率の考え方を学び簡単な確率計算ができるようにする。[講義・(質疑応答)][演習] 第9回:集合:ベン図や特に「表」を描くことによって問題内容や条件が簡単化・明確化でき解くことが容易になる。これらの手段を使うことの簡便さを学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第10回:「速さ」:時刻表の問題や旅人算等、速さの文章問題については立式できるように練習する。[講義・(質疑応答)][演習] 第11回:損益算・分割払い:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第12回:割引・精算:比の考え方、割合の考え方から、損益算や濃度の計算について学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第13回:仕事算:仕事算については比例と割合の考え方を繰り返し学ぶ。[講義・(質疑応答)][演習] 第14回:総まとめ[講義・(質疑応答)][演習] 第15回:総まとめ(2)[講義・(質疑応答)][演習] ※適宜「復習小テスト」を実施する。

	<p>* 課題に対するフィードバックの方法:「復習小テスト」を実施した場合には後日の授業において解答を配布し簡単な説明をする。</p> <p>(注意)初回から数回の授業を行い、場合によっては授業内容の変更の可能性も有得る。(特に授業の進捗状況によっては第13回目と第14回目の内容の変更が有得る。)</p>
授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容と必要な標準的な時間	<p>【予習】常には正負の数の確かな計算力(四則演算)と、各回(1~14)の授業内容に関わる小中高で学んだ数学に関する各種の公式を理解しておく。また配布された問題等の該当部分をよく読み、実際に考え、不明な部分をチェックしておく。(各80分程度)</p> <p>第1回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第2回: 図表の読み取り方:様々な図表の読み取り方を学ぶ。</p> <p>第3回: 判断推理・推論①:順位問題や正誤問題等</p> <p>第4回: 判断推理・推論②:平均問題や人口密度問題等</p> <p>第5回: 判断推理・推論③:複数選択問題等</p> <p>第6回: 判断推理・推論④:内訳問題等</p> <p>第7回: 確率・場合の数①</p> <p>第8回: 確率・場合の数②</p> <p>第9回: 集合</p> <p>第10回: 「速さ」:時刻表の問題や旅人算等</p> <p>第11回: 損益算・分割払い</p> <p>第12回: 割引・精算</p> <p>第13回: 仕事算</p> <p>第14回: 総まとめ</p> <p>第15回: 総まとめ(2)</p> <p>【復習】その日のうちにノート等を読み直し不明な部分をチェックし質問事項をまとめ次回以降に必ず質問し回答を記録しておくこと。(各80分~程度)</p> <p>【休日学習】「レポート課題」を与えられた場合は、集中して考え解答しレポートとしてまとめ、提出期限までに提出すること。</p> <p>* 授業外学習時間は80時間~必要であるため、不足分は休暇等を利用して復習すること。</p> <p>【レポートについて】</p> <p>※以下の1~2に該当しない場合は、レポートは受け取らない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容は答えのみでなく必ず結論に至るまでの理由等を記述すること 2. 時間厳守(必ず提出日時までに提出)
テキスト	本学独自の2021年度<<秋学期>>テキストを使用する。
参考書	SPIや公務員試験の各種対策本(できる限り最新のものが望ましい。)
成績評価の方法・基準	<p>⑦ 平常点(ノート提出・ルーブリック自己評価[毎回提出]・レポート・小テスト・履修状況等含む)40%、試験60%(web試験の場合は平常点の方にウェイトが掛かる等の変更あり)で決定する。</p> <p>また、原則としては、6回以上欠席した場合は、E評価(=評価不能)。平常点及び試験得点等の不足は、D評価(単位未修得)とする。</p>
URL	
備考	<p>【科目ナンバリング】CBC204</p> <p>「履修・受講に対する注意事項等」を熟読のこと。</p>

<p>指定クラスで履修する事。</p> <p>授業中は集中して受講のこと。</p> <p>他の学生の学習権を侵害すると思われる行為等をした場合は当該授業は受けれない。</p>
